

特集

イオンモールの未来を考える プロジェクト

次世代を担う若手社員がバックキャスト思考で描く、
ビジョン策定、アクション実行を通じ変革のきっかけをつくる。

社内プロジェクト「studio LIFE DESIGN」発足



「studio LIFE DESIGN」は、生活者やお客さま、社会の未来を想像して当社の将来あるべき姿を検討し、アクションを起こすことで社内に当社が向かうべき方向性を示していくプロジェクトです。社内公募によって選ばれた若手社員中心のメンバーが2040年、2050年を見据えながら、バックキャスト思考で、2030年の地域・社会において、商業施設の枠組みを超えて当社がどのような存在・位置づけになっているべきかを自由に考えます。

また、議論の内容を図やイラストで可視化して、タイムリーに社内公開することで透明性を高め、プロジェクトメンバー以外の社員にも当社の未来をつくることへの参画意識を醸成します。

studio LIFE DESIGNのミッション

企業の事業としてありたい姿「暮らしの未来」をつくるLife Design Developerとして

地域・社会の抱える課題に、ソリューションを提供することを事業とし、
イオンモールが地域コミュニティの中核施設・社会的インフラの地位を確立

そのために必要な会社体質（組織の状態）

地域・社会にソリューションを提供することを、
社会貢献活動ではなく、持続可能な“事業”（＝利益創出）として実現していける会社体質

studio LIFE DESIGN

所属部署を超えて、職位・年次・年齢関係なく自由な発想でルールなし >
イオンモール社は、社会にとって どのような存在でいたいのか、どのような存在でいるべきなのかを議論し、
まずは象徴となって 行動を起こす

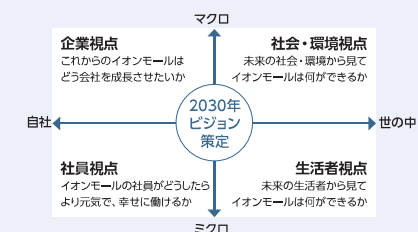
プロジェクトメンバーの声



PHASE 1

ビジョン策定（2021年7月～2022年2月）
世の中視点と自社視点で未来を構想し、ありたい姿を言語化

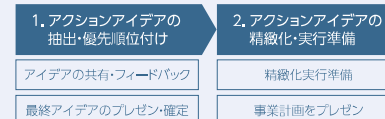
2030年ビジョン策定に向けて、まず社会・環境視点と生活者視点とを整理し、2030年の生活者の暮らしを構想。価値観や生活様式にどのような変化があるのか自由に想像するとともに、当社が提供したい価値を検討。さらに、企業視点と社員視点から私たちがどう成長し、どうありたいかについても議論を重ね、これらの協議結果を統合整理しながら2030年に「実現したい社会」「自社の提供価値」を言語化し、「地域共創業への進化」をめざす方向性を導き出しました。



PHASE 2

アクション検討・実行準備（2022年3月～2022年8月）
2030年ビジョンの実現に向けたアクションを検討

2030年ビジョンの方向性を念頭に、アクションアイデアを自由に発想し、多角的な視点の提案をメンバー間で共有。この中からプロジェクトとして推進すべきアイデアを議論し、優先順位付け・精緻化と実行準備・計画を進め、最終的には経営層との議論を行いました。



PHASE 3

アクション実行（2022年9月～）
アクションを実行する姿を社内に見せ、会社の向かうべき方向性を示す

アクション実行にあたっては、社内に変革やチャレンジする風土を醸成するインナーコミュニケーションを重視。右に記載している3つのアクションを通じて、studio LIFE DESIGNの行動が会社全体に波及していくことをめざしていきます。

- プロジェクトメンバーが率先して先駆的な事例をつくり「背中を見せる」
- 一緒に行動を起こしたいと思っている社員の「背中を押す」
- アクションの内容を「伝えて気づき・刺激を与える」

